

大賞・優秀賞



設計担当者

江副敏史

(株)日建設計 設計監理部門、大阪府建築士会



共同設計者

差尾孝裕

(株)日建設計 設計監理部門、大阪府建築士会

劇場／大阪府高槻市

高槻城公園芸術文化劇場

構造 | 鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造
鉄筋コンクリート造

階数 | 地下2階・地上3階・塔屋3階

敷地面積 | 19,075.80㎡

建築面積 | 5,438.86㎡

延べ面積 | 17,273.65㎡

竣工年 | 令和4年



1



2



3

選評

この建築は1,500席の大ホール、200席の小ホール、大・中・小の全11室のスタジオによって構成され、延べ面積が約17,000㎡にも及ぶ大規模な施設であり、敷地は高槻城公園と神社に挟まれ、周辺は学校、住宅などの中低層建物に囲まれた落ち着いた環境にある。

そのような環境にあって、大きな建築が低く、小さく構えた佇まいが印象的である。この印象は、通常であれば地上2階建てとなるところを地上1階、地下1階として建物高さを抑えたこ

とホールやスタジオのボリュームを分節化したことによる。1階は緩やかな勾配で盛り土して1FLを既存地盤面+1.5m~1.8m程度に設定し、地下1階は階高を3mに抑えた半地下空間として、植栽が印象的な上り庭や中庭を要所に配置することで地下でありながら外部空間とつながる巧みな断面構成である。

平面的には水平方向へと伸びていくロビーが心地よい。ロビーに沿って歩を進めるとBOX状でガラス張りのスタジオが並び、各スタジオ

の間は外部を見通す開口部や出入口となっている。ロビーと外部の緑の空間とのつながりを強めるために建物外周部分には、鉛直力を負担する100mm角の鉄骨柱を配置しているのみである。特にメインエントランス部分は、この鉄骨柱、PC緊張梁、PCaPC床版を組み合わせ、約13.5m×21.6mの無柱空間を形成し、奥行き4.4mの軒庇と相俟って浮遊感のある空間となっている。また、大ホールのホワイエ空間では、2階の床を支持する片持ちトラス梁か



4



5



6

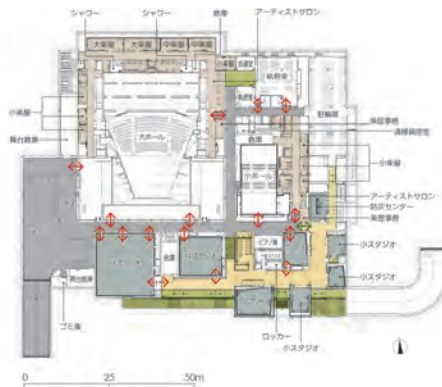


7

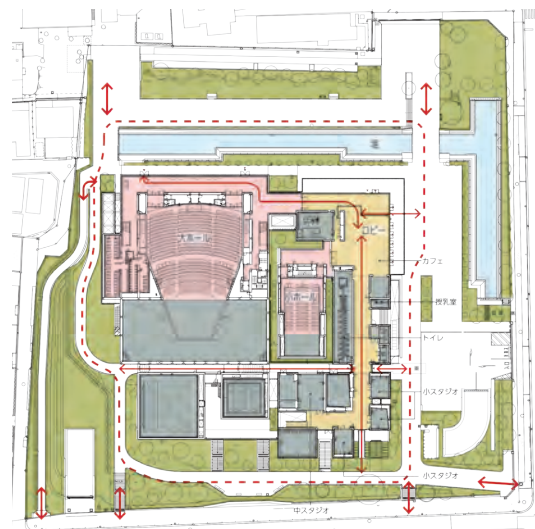


8

- 1 公園の木立に溶け込むように、内外装には大阪府産材の木ルーバーを張り巡らせた。3つのホールと10室のスタジオ群を点在させる平面計画にすることで、ホールという大きくなりがちなヴォリュームを微分し、ヒューマンスケールな立面をつくり出している
- 2 大屋根の下で建築と公園がひとつの風景としてつながる
- 3 公園利用者も自由に使用できるカフェや授乳室、便所などをエントランスロビー中心に計画し、公園と建物の双方の魅力を向上させる13.5m×21.6mの無柱エントランス空間と4.4mの片持ち軒庇
- 4 大ホールホワイエ
- 5 小ホールホワイエ
- 6 1階スタジオ前共用廊下
- 7 地下サンクンガーデン
- 8 約27,000個の木キューブに囲まれた迫力ある約1,500席の大ホール



地下1階平面図



1階平面図

らガラススクリーンの支持をとっており、柱がないホワイエは開放感にあふれている。このようにデザインと構造を統合した空間は特筆に値する。

この建築のもう一つの特徴は、素材の限定とモジュールの統一である。内外ともに素材を木とコンクリートに限定し、外観における1階部分の木ルーバーは、見つけ寸法を統一しながらも複雑な凹凸パターンのため揺らぎのある表情を見せている。上層部分のコンクリートは型枠兼用のリブ付きPCa版で、リブのピッチは木

ルーバーと揃え、リブの凸部はウォータージェットによる縦目仕上げとなっていて木ルーバーと調和している。PCa版の目地をリブの入隅部に設けることによって存在感を消していることも木とコンクリートによるモノリシックな外観を生み出すことに寄与している。ロビー周り内部空間は、壁を外部と同じ木ルーバーとし、床をコンクリートの磨き仕上げ、天井をコンクリート打放しとして外観と素材を統一している。大ホールでは27,000個にも及ぶ木のキューブを壁と天井に

ランダムに張り巡らせ圧巻である。また、平面計画から木ルーバー、PCa版のリブ、ガラスの割り付けに至るまで2.7mの基準寸法に則っている寸法体系が全体の統一感を生み出している。

このように地域景観への貢献、デザイン・建築計画・技術が統合された空間、秀逸な素材使いと寸法体系など、いずれの観点からも秀でたこの建築は大賞にふさわしいものである。

(箆島亮)